

テレビを買い替え体験記 テレビを買って気になったこと

もう半年近く前のことになってしまった。間もなく大相撲夏場所が始まるという大事な時期にテレビが故障した。電源回路の故障であることがわかり、自分で修理するのは難しいそうだという結論に至り、代替機の品選びをすべく、家電量販店に飛び込んだ。

●家電量販店の店頭で

店頭に並ぶテレビは、65インチ・75インチという大きなものばかり。我が家は41インチなのでこんな大きなものは必要ない。陳列品を眺め歩くと、端のほうに40インチ台のものがひっそりと並んでおり、さらにその横に20インチ台の一人暮らしの人や個室で独り楽しむ人向けという触れ込みの商品が置いてあった。

入った店の周囲はマンションが多く、新築のマンションを目下売り出し中の町だった。

マンションは広い壁が多く、一戸建て住宅と違って窓などの開口部が少ない。家具・調度品を壁際に配しても直広い壁が残るので、大きなテレビを置くスペースが確保できる。

しかもテレビを「音響システム付き動画再生装置」として広めていこうとするメーカーの思惑もからみ、画像のきれいさ以外に、サラウンドシステムと名付けた迫力ある音声を楽しませようという商品も多い。6畳の部屋を想定したものではなく、広いLDKを持つ間取りの家を想定したものの方が幅を利かせている。また、薄型になったテレビを、広い壁に架けて、後方のソファーにふんぞり返って楽しもうというようなノリのものもある。

さらに、消費者のテレビ離れを防ぐために、「インターネットから動画を入手して見られるテレビ」という商品価値を売り物にしようとする動きが顕著になってきた。かなりのテレビが、インターネット動画を見ることができるようにしており、テレビとパソコン・スマホとの協調・融合が図られている。

6畳の和室に置くテレビは、設置場所が難題になる。窓がたっぷりとられていて、床の間や押し入れがあるので、余白の壁はさほど多くはない。その壁を背にテレビを設置できるレイアウトばかりではない。やむなく裏窓を背にした場所に設置することになったり、悪くすると南側の強い陽光が入る窓を背にすることになる家庭もないわけではない。

マンション居住者が増え、一戸建ての家でも工法やデザインが変化てきて、そこに住む人の生活様式も変化してきているのは事実だが、圧倒的多数がそういう環境で暮らしているわけではない。

一方、テレビの立場からすると、情報化社会のとばっちりを受けて立場を守るために様々な顔つきに変えざるを得ない状況になってきている。そんな中で、テレビを作る側・売る側が考えていること、テレビを使う側が考えていることの間にずれが生じて、いくつかの問題も起き始めているように感じる。

●警察沙汰が発生した

数年前のことだが、交番の巡査が訪ねてきた。近所の家から「テレビの音がうるさい家がある」と何度か警察に通報が入ったという。交番の巡査が一軒ずつ訪ねて確認し歩きはしたもの、争いごとを避けるためか、通報者が誰かは言わずに、「こういう事案が発生しているのでご注意いただきたい」と説明し歩くのが精いっぱいという感じだった。

我が家は、6畳の和室にテレビを置いてある。テレビの後ろは窓、防寒用二重窓になっているので、通

常は音が漏れにくいはずだが、冷暖房をしない季節には網戸一枚なので、音が外に漏れる可能性はある。音量は控えめなので苦情の対象になるとは思えない。でも気をつけるにこしたことはない。

ある日、外を歩いていて気が付いた。近所の家でテレビの音が大きく聞こえてくる家がある。冷房を必要とする時期が過ぎたので窓が開いている。その窓からテレビの音が聞こえてくる。高齢者の一人暮らし、しかも耳が悪いので、ボリュームは上がり気味。もしかすると……と思はしたが具体的な行動に出るのは差し控えた。

●テレビの構造の変化

薄型テレビが世の中に出始めた頃には、テレビ前面のフレーム（額縁）のあたりに細型スピーカーが内蔵されていた。大画面化が進むにつれてフレームが細くなり、スピーカーを内蔵する空間が乏しくなり、フレーム下部に下向きに配置されるようになった。その後、スピーカーを後ろ向きに付けても前に聞こえてくるような物も開発され、近頃ではスピーカーの形をしていないが音を出すことができるものまで登場するようになった。

後ろ向きに取り付けられたスピーカーは、音を後ろに出すので、音量を上げれば、音の大半は後ろに出て行く。もしテレビの後ろの窓が開いていれば、隣家に聞かせることになってしまう。

もし後ろが壁であれば、トラブルにはならないし、壁掛けテレビのように壁に密着していれば、テレビ装置全体が音響システムとなり、良い音を提供してくれることになる。

●最適なテレビの選び方

パナソニックのホームページに、薄型テレビの選ぶ時のポイントが示されていた。

その中で、部屋の大きさと、お勧めの視聴距離、最適なテレビの画面サイズについて触れている。

表-1:部屋のサイズと最適なテレビのサイズ
(パナソニックのホームページより)

部屋のサイズ	4.5畳	6畳	8畳	10畳	16畳
お勧め 視聴距離	0.8m	0.9m	1.0m	1.2m	1.4m
最適な 画面サイズ	42インチ以上	48インチ以上	55インチ以上	65インチ以上	75インチ以上

仮に画面サイズ48~55インチぐらいのテレビを選ぶと、テレビ置台を含むと「横1.2m・縦0.8m 奥行0.4m」以上の空間を確保する必要がある。

従来型の、木造家屋・団地の間取りなどを想定すると、少々現実離れすることになる人も少なくない。

パナソニック以外のメーカーの情報も含めて調べてみたが、ほぼ似たような情報が示されていた。

一部のメーカーでは、テレビの音声を発する部位と可聴範囲を図示しているメーカーもあった。

SONY・東芝・パナソニックなどを中心に各メーカーの情報を調べているうちにわかつってきた。

上表の「お勧めの視聴距離」の持つ意味は、「この距離でなければ音は聞こえませんよ」という意味が含まれていることがわかつってきた。どうやらテレビのコンセプトは「この距離の範囲内に座ってじっくり鑑賞する」ものとなっているようである。

●警察沙汰が発生した背景

ここまでわかつたことで、前述の警察沙汰発生の背景が見えてきた。

Aさんの家では、1階の窓際にテレビが設置されている。Aさんは一人住まいの高齢者で、聴力に若

千問題がある。テレビの音量を上げないと聞き取りにくい。エアコンがフル稼働している夏と冬は窓を密閉しているが、道路側からは雨戸越しでも音がよく聞こえてくる。

エアコンを使用せずに窓を開けている季節には、テレビの後ろの窓は開いているので、窓から外へ向かって音が出て行く。そのため、音が前へ聞こえるようにするために、一層ボリュームアップする。

その結果、この季節には隣家でも窓を開けているので、大音量が隣の家に向かってしまう。

テレビの構造上の理由から、音が後ろへ出て行ってしまう上に、視聴者が聴力に問題があり、しかも冷房嫌いで窓を開けている高齢者の単身生活という条件が重なり、トラブルが起きたと推察できる。

●我が家の選択

我が家では6畳間の窓際にテレビを設置してある。落ち着いてテレビを見る時にはこの部屋のテレビと対面する位置で座椅子に座っている。6畳間と隣接するDKルームの間のふすまは撤去して、ぶち抜きの部屋にしてあるので、食事をしながら隣室からもテレビを見られるようになっている。

これまでのテレビは液晶の40インチ画面で、隣室からでも充分楽しめるものだった。

今回の買い替えにあたり、これまでのテレビのサイズで特別の問題はなかったので、同程度の画面サイズのものを選ぶことにしていたのだが、冒頭に記したように、もはや40インチのテレビは売れ筋商品の立場ではなく、品ぞろえも不充分だった。

隣室からも見るとなれば、メーカーの推奨に従えば、65インチ・75インチの大画面を選ばなければならぬが、部屋のサイズを考えたらそのようなことは現実的ではない。

これまで使用してきたテレビ台の上に乗ることも条件として考えた結果、結論として43インチ画面を選択し、インターネット上の品選びに入った。

そして購入した43インチのテレビを、これまで使用していたテレビ台の上に乗せた。

この商品は「お勧めの視聴距離=90cm弱」だった。設定を終えて確認をしてみたら、画面については隣室から見ても何ら問題はないが、音量については確かに「視聴距離=1m程度」だった。

音量を上げてみると、背面へは大きく音が出てくるが、前面の音量は大きくならない。背面に出る音もこれまでのテレビの音量に比べると低い。

このような結果については既に予想しており、対策も検討済みだったので、慌てることはなかった。

テレビの音声を、手元で增幅してくれる装置「テレビ用スピーカー」なるものがある。単なる「スピーカーの手元化」だけのものから、「聴力弱者でも聞き取りやすい音質に変換」するもの、「映画館の迫力音声」を出すものまで種々様々で、価格も数千円から数万円代色々。また、手元のスピーカーとの接続方法も有線から無線まで様々で、テレビ本体とスピーカーの間の許容距離も異なる。

我が家で購入したものは、聞き取りやすい音質に変換して音量調節が可能なもので、2万数千円。

テレビ本体から光ケーブルで取り出した音声信号を、この装置で音質変換して、Bluetoothでローカルスピーカーに送るというもので、スピーカーを一定の距離の範囲で持ち運び可能になっている。

この装置を利用すると、テレビ本体の音量は最小でも、ローカルスピーカーで任意の音量に調節できるので、テレビの背面にこぼれる音量は少なく、視聴者の傍で大きな音を出すことができる。結果として、隣の部屋からでも視聴が可能になった。

また、聴力に障害がある人でも、聞き取りやすい音量と音質でテレビを楽しむことができる。

●テレビばかりではなく…

高齢化が進み安全面で一戸建て住宅からマンションに切り替える人がいたり、古い街の再開発が進んだり、様々な理由でマンションに住む人の数が増える傾向にある。

とは言っても、昭和40～50年代に建った団地型共同住宅に住む人の数も急激に減るわけではないし、旧来の木造の一戸建ての家に住む人も沢山いる。

そして、高齢化が進むことにより、独居老人世帯が増えていくことにもなる。

一方、家電量販店では、店によって顧客層が異なり、「売れる商品」が店舗ごとに偏りがある。

タワーマンションの街のお店と、一戸建ての家が多い街のお店と、団地の中のお店など周囲の環境によって売れ筋商品が異なるため、店舗の品ぞろえにも偏りが出ることになる。

消費者は、自分の住環境に合わせた店舗を選ばないと、適切な商品選択がし難くなりやすい。

また、テレビに限らず、家電商品全般にわたって言えることだが、「買ってくれる人」をターゲットにするか「使ってくれる人」をターゲットにするか、「その商品のコンセプト」造りが重要になってくると思う。

一歩間違えば「弱者」を生み出すことにもなりかねない。

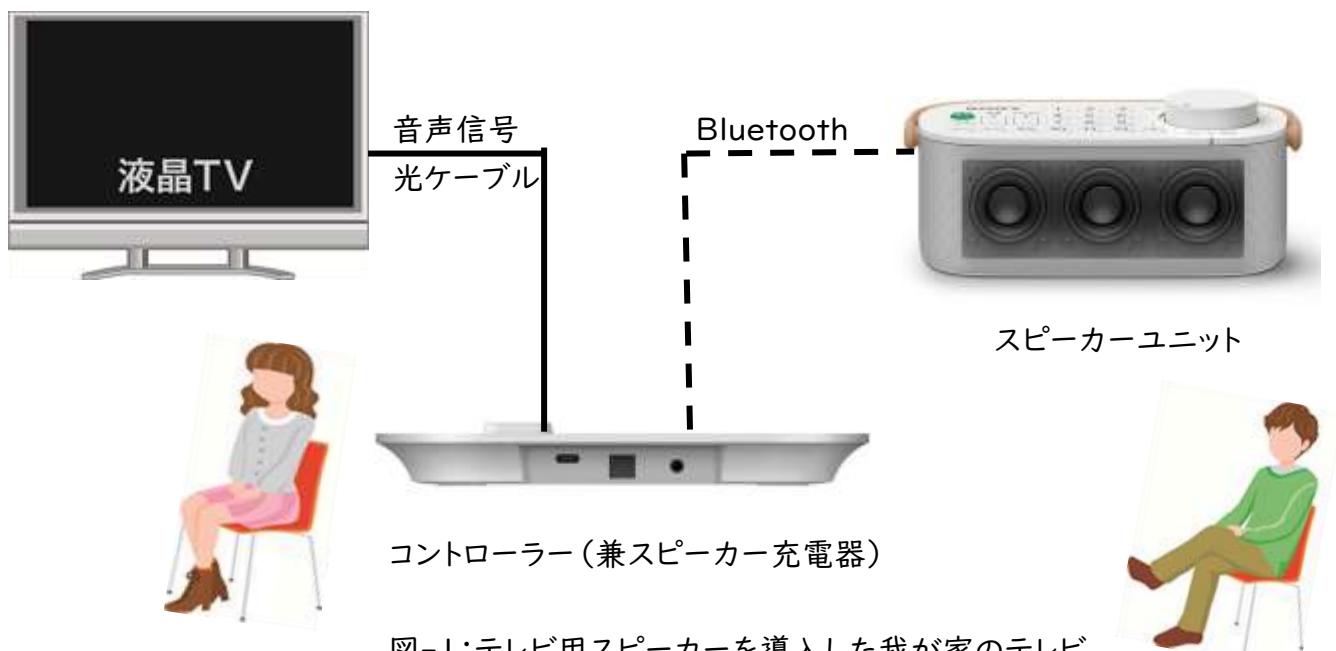


図-1:テレビ用スピーカーを導入した我が家の中のテレビ

以上